

生成AI時代の対人援助

弁護士・社会福祉士
浦崎寛泰 Hiroyasu Urazaki

精神保健福祉士・社会福祉士
佐藤香奈子 Kanako Sato

I 事例編

とある若手弁護士（以下「弁」）が、独立型事務所を経営するベテランのソーシャルワーカー（以下「SW」）に、受任事件の悩みを相談しました。

❖ 1 弁護士よりAIを信頼する依頼者

弁 先日、ちょっと困ったことがありまして。半分愚痴なのですが、聞いてもらえますか？

SW どうしましたか？

弁 今担当している事件の依頼者が、裁判所に提出する準備書面の案を持ってきたんです。「ご自身で書かれたんですか」って聞いたら、「AIに作ってもらいました」って。それを訴訟で使ってほしい、と言うんですよ。

SW ああ、最近のAIはすごいですよね。それっぽい文章はいくらでも作りますよね。

弁 読んでみると、確かにそれっぽく書かれているのです。ただ、条文の引用が微妙にずれていたり、実際には存在しない裁判例が引用されていたり、とても使いものになりませんでした。

SW 依頼者さんは納得されたのですか？

弁 明らかに間違っている点については、指摘をすれば納得してくれました。ただ、生成AIが作った文章は、依頼者が書いてほしいことをほぼそのままに、長々と、いかにも自信たっぷ

りに書かれているので、表現を修正するのにとっても苦勞しました（苦笑）。私よりもAIの方を信頼しているようでした。

SW それは大変でしたね。この先、AIがもっと普及すれば、弁護士よりもAIに頼ろうという人も増えてくるかもしれませんね。

弁 法律業務に関していえば、今の生成AIが作る書面や回答は、そのままでは実務に使えないものがほとんどという印象です。現状、信頼できる法律情報の多くは、紙の書籍や雑誌など、電子化されていないものが結構あります。ネット上には情報があふれていますが、怪しいものも多く、生成AIがそれらをいくら学習しても、実務的に使えるものにはならないでしょう。

SW 将来的にはどうなりそうですか？ AIは想像を超えるスピードで進化しています。

弁 そこが怖いところです。いずれ、そういった紙ベースの情報も含めて網羅的にAIが利用できるようになる日が来るでしょう。そうなると、専門知識のない相談者でも、AIを使ってある程度正確な法律情報を素早く入手できるようになる。裁判に必要な書面も、AIが自動的に作ってくれる。そのような状況になったとき、私たちの仕事はどう変わるのか。すぐではないにしても、弁護士の仕事がAIに置き換わっていくのではないか、という漠然とした不安は、正直あります。

SW 今のAIの驚異的な進化をみせられると、